石川県支部

水産物流通構造の改善に関する調査・研究

概要

石川県は、その沿岸・沖合に良質の漁場を持つこともあって古来より海の幸に恵まれ、今までも水産県として知られている。産業的にも、生産から流通そして消費段階に至るまでまさに地場産業として大きな役割を担ってきた。

しかし、近年の流通構造の変革やそれにもなう食生活の変化もあって、今や大きな転機に直面しているというのが現状である。

そのような産業としての一大変革期には、われわれ中小企業診断士の役割も大きくなるが、業界そのものに関する知識が乏しければ、活躍のしようがない。

そこで、昨年より 2 年間にわたって本県漁業の実態や水産物の流通構造について、その問題点と課題を明確にしようとしたのが、本調査研究事業である。

昨年度は、主として物流的には川上にあたる漁業生産面の実態把握を行い、本年度は川中にあたる流通の現状についての調査研究に取り組んだ。特に、戦後我が国の生鮮食料品流通の中核を担ってきた「卸売市場」に関する認識と理解を深めることに重点を置いた。とりわけ、石川県における水産物流通の中核部である金沢市中央卸売市場水産物部の現状と課題に関する調査研究には、資料的制約もあったが、全力を傾注した。

さらには、これからの水産物流通のあるべき姿に関しても新しい事例の紹介や目指すべき方向性を積極的かつ大胆に提示した。

具体的な調査研究内容や、その結果を踏まえた提言内容は、下記のようなキーワードで表現されるが、詳細に関しては「調査研究報告書」を参照されたい。

1. 我が国水産物流通の現状と課題

- (1) 我が国の水産物流通の推移
- (2) 水産物流通の形態変化
- (3) 水産物消費量の減少と生産基盤の弱体化

2. 卸売市場の現状と問題点

- (1) 卸売市場制度成立の背景と現状
- (2) 流通構造の変化と市場離れ
- (3) 石川県の卸売市場の現状

3. 金沢市中央卸売市場の現状と課題

- (1) 金沢市中央卸売市場設立の経緯
- (2) 金沢市中央卸売市場水産物部の現状
- (3) 仲卸業者の存在意義と経営革新の必要性

4. 新しい水産物流通を目指して

- (1) 先進的な水産物流通の事例研究
- (2) 国際的な水産物の消費・流通の動向
- (3) これからの水産物流通の方向性

時間的制約や資料収集面における困難もあり十分な成果を上げ得たかについては、力不足の面もあったが、水産業界について石川県支部内に認識を共有する集団が形成できたことは、今後に向けての大きな財産といえ、本調査研究事業に対する本部の支援に感謝したい。